

## 「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学工学部 3年 笠井遙

## ① 学習成果

3 年生でありながら京大のプログラムを利用して海外に行くのは今回が初めてであった。これまで中国語を勉強したことはなく、ただプログラムを利用して中国に行きたいという思いだけで応募したのだが想像していたよりも多くの物を得られたと感じる。

まず事前学習でチューターの方に初歩の部分から日常で使える簡単な語彙を教えていただき出発した。この時点では全く相手の行っていることが聞き取れない状態であり、スピーキングのテストを受けてレベル 1.5 のクラスになった。口語、文法、聴力の 1.5 時間の授業を一日に 2 コマ受講した。中国語の授業を受けるのは初めてであったがどの授業の先生もわかりやすく休まず楽しく出席することができた。2 週間で理解できるようになったとまでは到底言えないが、単語単位で聞き取れるようにはなり、返すこともできるようになった。授業では各国からの留学生が同じ教室にいて刺激を受け、初心者レベルから中国語を学ぼうという友達ができただけで今後の学習にも役に立つと思う。母国語、英語が話せるのは当たり前で、その上で中国語を学んでいる人たちが大半であり、英語は早急に難なく話せるようにしておかなければ先がないということも肌で感じた。

短い期間ではあったが留学をできたことで漠然とした留学とはどのようなものなのかということがなんとなくではあるが感じられ、長期の留学をしたいと強く思った。また現地で協力してくれた有志のボランティアの学生には感謝しても仕切れない。彼らは日本が好きという思いで、忙しい中私たちのコーディネイトをしてくれた。そのホスト力は見習わなければならないものだと思うし、彼らが京都に来た時には全力でサポートしたい。

## ② 海外での経験

杭州に到着してすぐに e マネーの必要さを実感したので sim カードを買いに行き、wechat-pay を使えるようにした。レジで現金を出している人はほぼ見ないというくらい e-money が浸透している国で最初にこれを登録できたのは大きかったと思う。これで払えないところはほぼなく、これによって高铁のチケットも自分で買えたり、レンタサイクルも登録して利用できるようにできた。レンタサイクルは国民の交通手段としてとても浸透していて他のメンバーが 2-4 元の公道で揺られながら帰っているところを 1 円で帰れ、地理にも詳しくなれたので利用してとても良かったと思う。また私は食堂で使う student card をすぐに失くしてしまったのだが、近くの人に声をかけて払ってもらって wechat-pay で送金するという方法が使えたので非常に役に立った。

卓球とバドミントンができたのもとても楽しかった。ラケット等を借りるのは 5 元くらいで時間無制限でずっとできたので日本にいる時よりも運動していた。暇な時にバドミントンをしに行くと適当に同じように一人でいる人に声をかけて一緒にプレーして交流が生まれたのは嬉しかった。バドミントンを通じて二人の老师と知り合いになった。

## ③ プログラム内容

午前中と一部午後は中国語の授業、午後、夜はボランティア引率のツアー、農学部とのプレゼンテーション、自由行動の日や週末の有志での観光と非常に盛りだくさんでほとんど暇がなかった。また今回は同日程で東大と静岡県立大のグループもいたので、日本の大学間での交流もした。

## ④ 進路への影響

フェアウェルパーティーに来た浙江大学の国際交流を統括している先生が京大の土木と関係が深く、お話を伺うことができた。私が今後進もうとしている地盤系の分野は中国で活躍の機会が多く、浙江大学の地盤系研究室は京大からの 3 ヶ月のインターンシップを受け入れており、数年前に研究していた先輩の報告書も読ませていただいた。そこにも書いてあったが、未知の世界で模索して生活するという経験は成長に欠かせないと思うので土木という専門を使った留学を真剣に考えていきたいと思う。